

令和8年度版

亀小スタンダード

学びのきほん

家庭学習の手引き



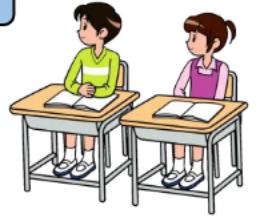
本校の『学び・家庭学習の基本』です。



海南市立亀川小学校



学びのきほん



1. 学習に必要な持ち物

◆毎日の学習に必要な持ち物です。名前を忘れずに書きましょう。

【筆箱の中に】*筆箱や鉛筆はできるだけ無地かシンプルなデザインにしましょう。

(低学年はハードタイプの筆箱を使いましょう)

□けずった鉛筆3~6本(1年生...6B 2年生...2B 中学年...2B・B 高学年...B・HB が目安です。)

*短くなった鉛筆は、家で使いましょう。 *鉛筆は家で毎日けずってきましょう。

□消しゴム □定規 □ネームペン (□鉛筆けずり)

□赤と青の色鉛筆(4年生以上は赤ペンと青ペンでも可) ※他の色ペンや多色ペンは持ってこない。

【お道具箱の中】*高学年は、必要に応じて小さな箱や袋に替えてもよい。

□のり(テープのり×) □はさみ □色鉛筆 □クレパス(1~3年生) □カスタネット(1~3年生) □セロテープ

□三角定規(2年生以上) □コンパス(3年生以上) □分度器(4年生以上) □学年別に必要なもの

2. 伝え合う

◆自分の考えと**比べながら聴く**と、考えを広げたり深めたりすることができます。

◆自分の考えを**伝える**ことで、学習内容の理解が深まります。

①**聴く**(「目」と「耳」と「心」でしっかり相手の話を受けとめることです。身に付けていきましょう。)

- (目) 話す人の方を向いて聴く。
- (耳) 最後まで話を聴く。
- (心) 「なるほど」と思ったり、自分と同じ考えだったりした時は、うなずきながら聴く。(聞いているよ アイウエオ)

Qワードを使って、聴いて、考えて、伝えよう

Qワード
なんで?
理由を探ってみる

Qワード
比べると?
違いはどこか探ってみる

Qワード
他の考えは?
いろんな考えを出してみる

Qワード
反対は?
あえて逆で考える

②伝える

- みんなに聞こえる大きさの声で話す。
- きちんと立って話す。
- みんなの方を向いて話す。
- 最後まで話す。

◎身に付けたい発表の仕方(話型)

- わたしは(ぼくは) ~ だと思います。
- ~さんの考えに さんせいです。(にています。)
- ~さんの考えに はんたいです。(ちがいます。)
- わけは ~ からです。
- ~さんに つけたします。
- ~さんに しつもんがあります。
- ~について おしえてください。

聞いているよ アイウエオ

ア: あ~

イ: いいね

ウ: うんうん

エ: ええ!

オ: お~

【ともだちの きちょうな こえから!】



3. 学習に向かう姿勢

◆学習の基本として、次のことに気を付けましょう。

- 手を挙げるときは、指先まで「ピン」としっかり伸ばす。
- 返事は、はっきり「はい」。
- 発表するとき、席をはなれるときは、いすを入れる。
- 授業が始まる5分前に教科書やノートを机の上に準備する。

ただしい しせい



くー
ぺた
ぴん

ノートの使い方

◆次の点を基本とし、学年に応じた方法でノートを使いましょう。

1. ノートと筆記用具について

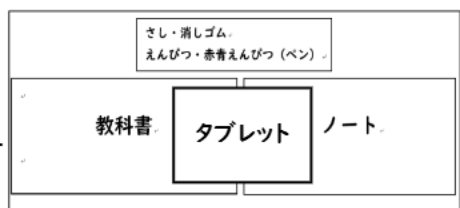
- ◎ノートのサイズ、マス目の大きさは、学校側で指定したりアドバイスしたりします。学年に合ったものを使用しましょう。
- ◎下じきを使用します。学校では、できるだけ無地かシンプルなデザインの下じきを使いましょう。

■机の上には、ノート、教科書、下敷き、4点セット

4点セット：①えんぴつ ②赤青えんぴつ（ペン）

③消しゴム ④定規 ※筆箱は机の中にしまえます

※タブレットを使用する場合は、机から落とさないようにできれば真ん中に置く。

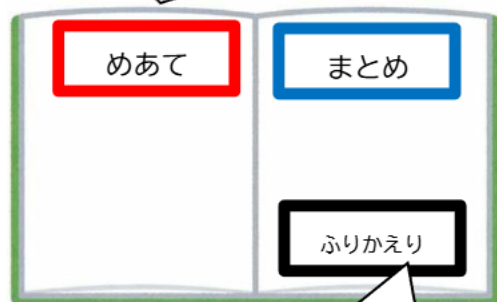


2. ノートに書くときは

◎先生の話をよく聴き、黒板と同じようにノートに書きましょう。

〈黒板〉	〈ノート〉
日にちや曜日を書く	約束の場所に書く
めあてや課題を書く	赤で囲む
まとめを書く	青で囲む
ふり返しを書く	黒で囲む

一番上をめあてがくるようにする



- ・自分の言葉で学びをふり返る
- ・場所は、学習によって違ってよい

3. その他の約束

- ◎学習の集中をさまたげるようなものや不必要なものは持ってきません。消しゴム（形・香り）や付箋、メモ帳、修正テープ、蛍光ペンなど
- ◎算数の文章題の筆算は、消さずに残しましょう。
- ◎テストのなおしは、消さずに、赤鉛筆や赤ペンで直しましょう。（普段のなおしは黒ですることもあります。）
- ◎見やすいノートづくりを心がけます。必要なメモなどを書けるようにしましょう。
- ◎プリントをはるときは、はみ出さないようにはりましょう。
- ◎ふり返しを書いて、その時間の自分の取り組みを評価しましょう。

家庭学習の手引き

① 家庭学習の手引きについての考え方

小学校の学習は、将来、児童が社会人として自立するための基礎となる大切なものです。学校では、学習内容が定着するように努めて指導していますが、家庭学習を通して家庭との連携を図ることで、定着はより確かなものになると考えます。ご家庭と学校との共通理解のもと、自立の基礎となる学力の定着を目指していきたいと思えます。ご協力を賜りますよう、お願いいたします。

② 家庭学習を通して育てたい子どもの姿

- 生活時間を有効に使うことができる児童
(一日の生活の中に、勉強や読書、手伝いの時間を必ずもちましょう。)
- 家庭学習の習慣や方法を身に付け、学習に取り組むことができる児童
- 計画的・継続的な学習を通して、基礎的・基本的な学習内容を身に付けることができる児童

③ 基礎的・基本的な学習内容とは

主として学校で学習する内容（教科書に掲載されている内容）です。特に、次のような技能は、各学年でつながりをもっていますので、それぞれの学年で確実に身に付けておきたいことです。

- 教科書に出ているような文章をすらすら読むこと
- 教科書に出てくる漢字を読んだり書いたりすること
- 教科書に出ているような算数の問題を解くこと



④ 家庭学習の習慣を身に付けるために

(1) 習慣化のためのポイント

- ①時間を決めて、毎日同じ時間に学習する
- ②テレビを消して、集中して学習する
- ③中学年以上の児童は、学習後の「答え合わせ」も自分でやる

☆『ご家庭での声かけを大切に』

- お子さんが学習していることに関心を持ち、励ましてあげてください。
- お子さんが尋ねてきたら、できる範囲で結構ですのでアドバイスをお願いします。
- がんばった成果（ノートやプリント）に目を通し、努力を認めてあげてください。

(2) 学年の発達段階による家庭学習に向かう姿

低 学 年	中 学 年	高 学 年
<ul style="list-style-type: none">・ 学校の宿題ができる。・ 宿題以外の自主的な学習が少しずつできる。・ 少しずつ自分で答え合わせができる。	<ul style="list-style-type: none">・ 少しずつ計画的に自主学習に取り組むことができる。・ 自分で答え合わせができる。	<ul style="list-style-type: none">・ 計画的に自主学習に取り組むことができる。・ 自分の課題に気づきどんなことに取り組むかを考え、学習することができる。・ 予習もできる。

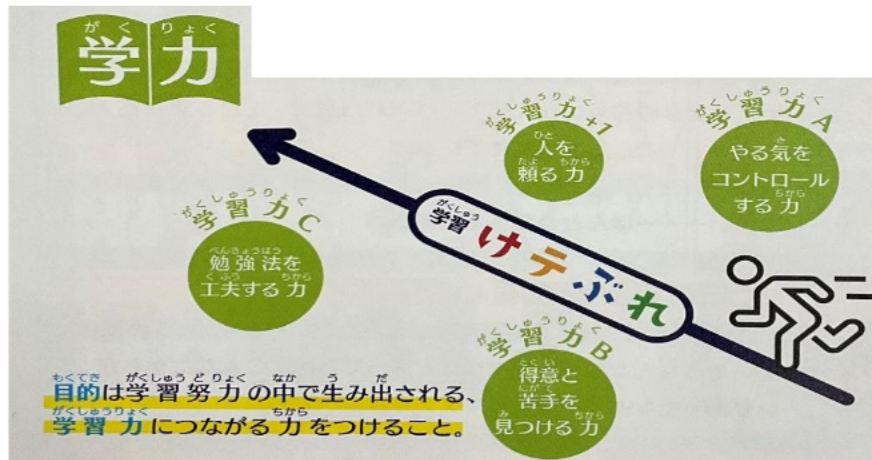
☆『自分で答え合わせをする意味』

答え合わせは、「正解・不正解」を確かめるだけの活動ではありません。学習内容の理解に関わる重要な活動です。「不正解」だった問題については、「どこが違っているのか」、「どうして違ってしまったのか」をていねいに探ることにより、自分の理解度やつまづきを知ることができます。十分でなかったところに再チャレンジすることによって「確かな定着」へとつながっていきます。間違いを直すことができなかつたところについては、学校で先生や友達に尋ねてできるようにすることが大切です。

⑤ 学習したことを定着させるために

研究によれば、家庭学習の後にゲームなどに没頭すると、学習した内容の定着率が低くなるという結果が出ています。家庭学習が終わったからといって、長時間テレビを観たりゲームで遊んだりせず、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムが身に付くよう、家庭での指導をお願いします。

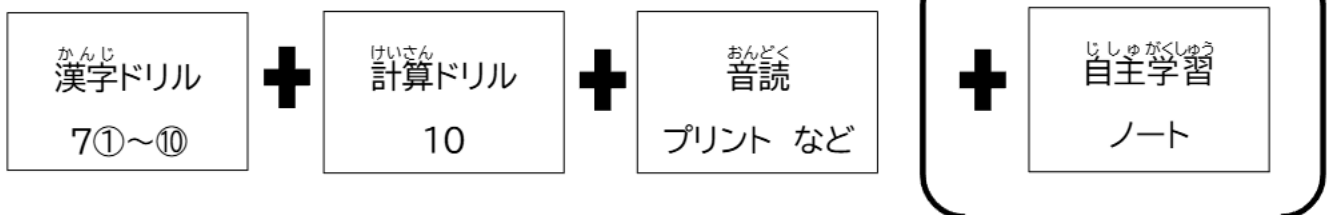
かめがわしょうがっこう 亀川小学校 しゅくだい 宿題 じしゅがくしゅう (自主学习) すす かた の進め方



亀川小学校では、自主学习を中心とした宿題に取り組み、自分の力で目標まで進んでいってもらいます。

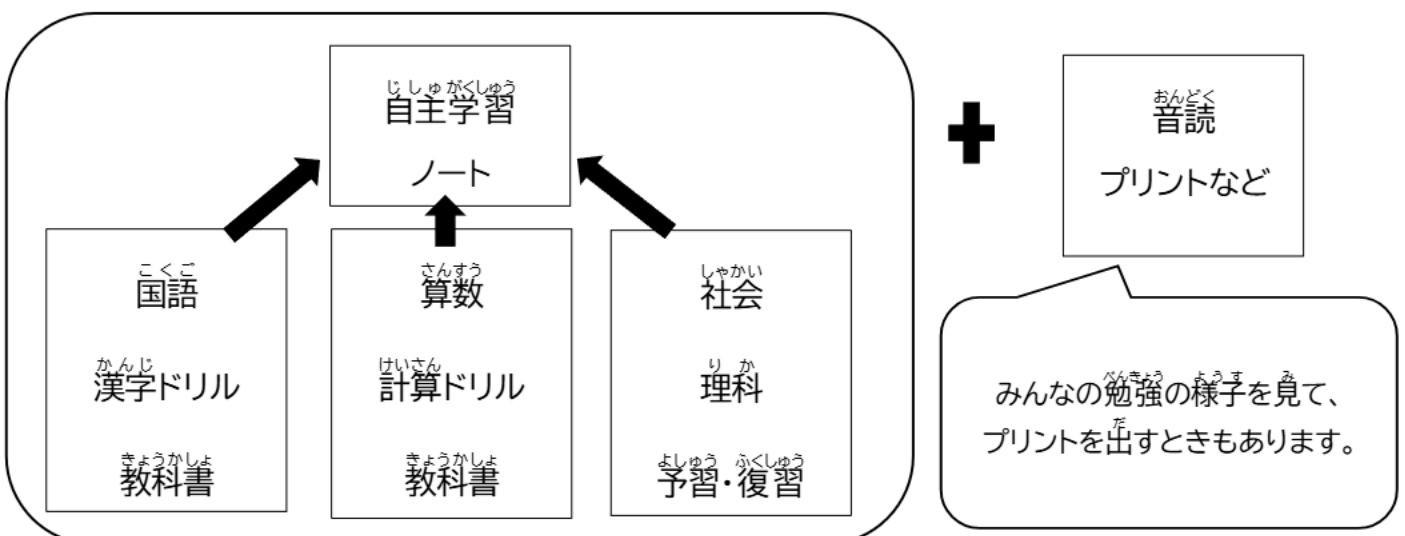
でも、どんな方法で自主学习に取り組みればいいのかわからないと、進めることができません。だから、取り組み方を教えます。まずは、「亀小スタンダード～家庭学習の手引き～」を使って、取り組みましょう。そして、自主学习は「学べれ」のやり方で進めます。「計画、テスト、分析、練習」というサイクルをまわすことで、自分の学習を進めることができます。自分で自分の学びを進める力を「学習力」といいます。これは大人になっても使える大切な力です。亀川小学校のみなさんには、この「学習力」をしっかりと身につけて欲しいと考えています。

低学年の宿題・・・先生から出される宿題



中・高学年の宿題・・・自分で考えて計画的に取り組む宿題

毎日、自学1ページ以上する。



計画・・・その日の「計画」を書こう！

けテぶれの最初は、「計画」ノートの1行目に「その日の計画」を書こう！ どんなことをどのよ
うに頑張るのか考えよう！

○勉強の目標は具体的に意識しよう！

→字をていねいに書く！ 最初だからゆっくりやる！

今日は本気でがんばる！など 気持ちを書くのもオッケー。

→「△月△日にある、〇〇のテストで、□□点取る。」

→「〇〇だから△△をする」 今日やることと理由をセットで書ければ、花マル！

(例)

①今日は⑫⑬をする。なぜなら1つは明日テストがある。2つ目は班で約束している。3つ目は
わかってるけど説明がうまくできないから。

○なぜその目標を自指すのかを忘れないようにしよう！

→自分で勉強する力=学習力をつけるために！

テスト・・・自分でテストをしてみよう！

計画の次はテスト！ ドリルで問題が載っているページを見て、問題を解いてみよう！

○テストするときの目的は、「まちがい」を見つけること！ 「今の実力」を正しく調べること。

○まちがいこそが成長のタネとなる。 「成長のタネ」=「わからないこと、苦手なこと」

○100点がとれなさそう・・・だからやる！

○できるだけ本番と同じような環境でやる。「本気」でやることが大切。

○丸つけも、本気で。自分に厳しく正確に。

○まちがいは宝物！ 丸つけは宝探し！ という意識を持とう！ 丸つけレベルを意識

分析・・・もっと賢くなるためにはどうすればいいか考えよう！

テストしたら、その結果の分析だ！ テストをやってみて、進化の種をゲットできた人は、その


種を育てる方法を考えよう！ 苦手を乗り越える方法だね！


○「プラス マイナス やじるし」


○まちがいのパターンを分類して分析する

この3点を意識しよう。

【まちがいの5分類】

 (プラス)
よかったこととその理由を書く

 (マイナス)
わかったこととその理由を書く

 (やじるし)
次からどうするかを書く

①問題の意味がわからなかった

②ちゃんと読んでいなかった

③解き方がわからなかった

④わかっていたのにまちがえた

⑤時間が足りなかった

○書くことが思いつかない時は、その日のテストの感想だけでもいいよ。「やったー！」とか「くやしい！」とか、自分の気持ちを書いてみよう！

練習・・・成長の方法がわかれば実際にやってみよう！

分析では自分の進化の種を育てる方法を考えたよね。何か思いついたのならすぐにやってみよう！ また今度…じゃだめ！ 進化の種が一番よく育つのは、見つけた瞬間だ！もし、やることがないなら、予習や「どうやって解くのか」「なぜその答えになるのか」を、説明してみよう。

○練習は「苦手なところ」にしぼってやるのが基本！！練習の方法は無限にある！

○「けてぶ」までは、言ってしまうえば現状を調べるだけ。「練習」ではじめて力が高まる。

○けてぶれは必ず「れ」までするようにしよう！

「タテに深める」・・・今の学習に関係することをたくさん調べる。

合言葉は「できる→説明できる→教えられる」

(例)

○習った漢字を使った熟語やことわざを調べて、文章を作る。

○なぜその答えになるのか説明文を書いてみる。

○学校に行って困っている友達に教えてあげる。

「ヨコに広げる」・・・今の学習範囲をこえて、先の学習をする。(予習)

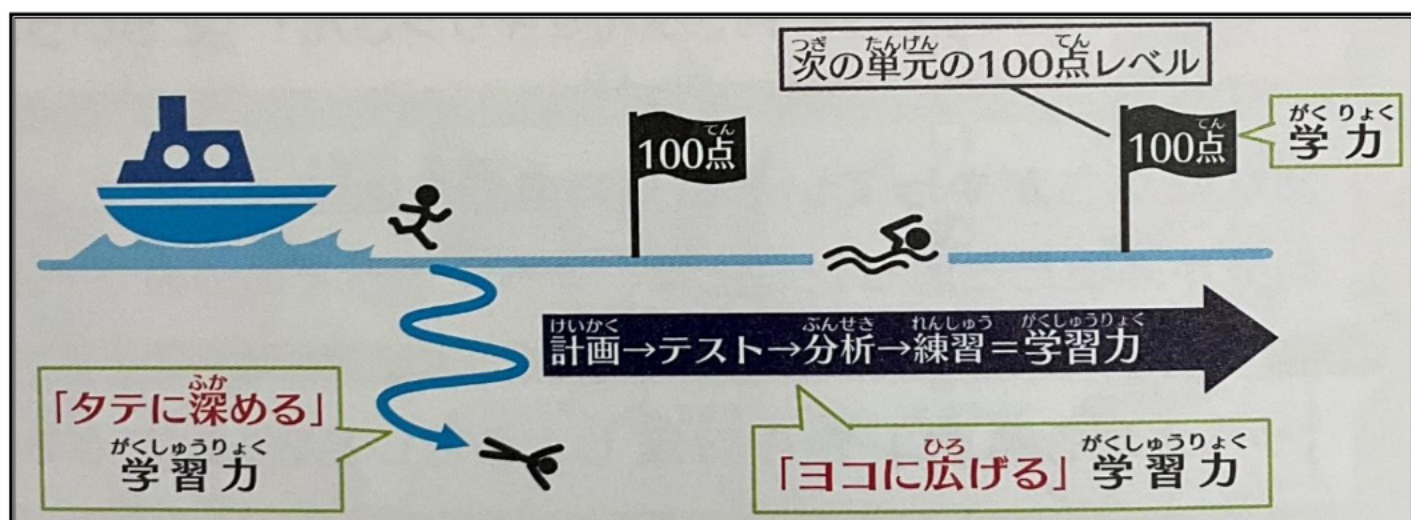
(例)

○ドリルや教科書の習っていないページを進んで学習してみる。

○次の授業の学習を試してみる。

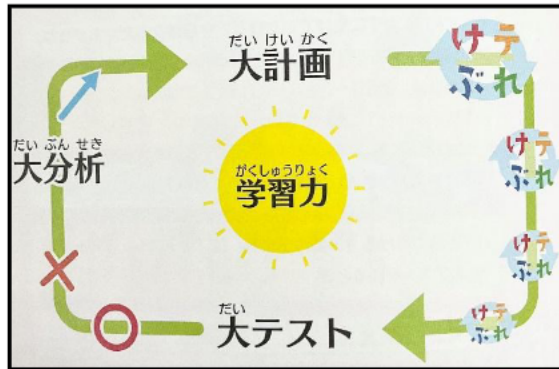
「成長のタネ」 = 「わからないこと、知らないこと、苦手なこと」を見つけるために

深くもぐったり、もっと遠くに泳いでみたりしよう。



だい 大サイクル・・・テストの日までの学 習 計 画 を 立 て て み よ う !

だい あと だいぶんせき ちょうせん
○大テストの後の「大分析」から挑戦するのがおすすめ!



- ※漢字の学習には、漢字練習ノートを買って、使ってもかまいません。
- ※目標となるテスト(単元テストや亀チャレテスト)がいつあるかわかるように、適案を使います。
- ※いつまでに終わらせるのか、期限を伝えます。自分のペースで進めて終わらせましょう。
- ※自分で答え合わせ・直しも丁寧に正確にします。
- ※わからないときや困ったときは、いつでも先生に聞いてください。

くわ がくしゅうりょく み がくしゅうりょく つか
○詳しく「学習力」を見たいときは、「学習カルーブリック」を使ってみよう!

	計画 見通しを持って確実に実行する	テスト 自分を知らうとする①	分析 自分を知らうとする②	練習 より良い方法を追求する	+
SS					友達と力を合わせる
S (自分)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の特長にあった計画を立てる。 計画の進み具合をチェックできる図や表を作る。 自分なりの仮訳を持ち、それを確かめるための計画を立てる(仮訳→検証)。 	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジの内容に本気で取り組むことで、自分の弱みを知ろうとする。本当の失敗と成功を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> 失敗や成功から次のチャレンジの仮訳を作る。 気づいたことを図や合言葉にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の質と量を調整し、短時間で、最大の結果を出せるような方法を発見する。 時間を忘れて没頭できるような方法に出会う。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の特長を分析して、適切なアドバイスをすることが出来る。 自分の特長を分析して、適切な質問をすることが出来る。
A (質)	<ul style="list-style-type: none"> 根拠を持って自分に必要な課題を選択し、目標を決める。 例:「○○だから△△をして◇◇ができるようになる。」 	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジをしている最中も計画を忘れず、計画を意識しながらチャレンジを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標と結果を比べて、学習の方法について考える。 過去の自分と今の自分を比べて、自分の変化を知ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のタテとヨコを意識し、「質」の高い学習をする。 チャレンジの内容や自分の状態にあった方法を選ぶ。 複数の方法を組み合わせたり、ある方法を変化させたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を共有して、友達と力を合わせ自分も友達も成長できるようなかわり合いができる。 友達とかわる時間と1人で集中する時間を調整する。
B (量)	<ul style="list-style-type: none"> 学習を始める前の気持ちを書く。 気が乗らなくてもとりあえず始める(やる→やる気が出る)。 	<ul style="list-style-type: none"> とりあえず、たくさん問題にチャレンジして、結果を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジの結果、思ったことや感じたことを「+、-」で素直に書く(思考を文字につかまえる) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分がいいと思った方法でやる。 友達や本、ネットで紹介されている方法をマネぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 人のことは考えず、とりあえず自分のことだけに集中する。
C	<ul style="list-style-type: none"> 計画を立てない。 やるべきことから目をそらして正当化する 	<ul style="list-style-type: none"> 丸つけをしない。 やるべきことからまちがいを認めない。 失敗を恐れて100点が取れそうなどこぼばかりやる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことを見ようとしなない。 言い訳をしてまちがいを認めない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「量」が足りない。 何も考えずただやるだけ(学習→作業)。 やっているふり。ごまかす。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を持たず、ただ集まってやる。 学習に必要ないかわりがある。



【出典】「マンガでわかる けてぶれ学習法」
著者：葛原祥太 発行：株式会社 KADOKAWA